

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
体育実技B		球技スポーツ 2	奥野 友介	1年次後期	1
科目区分	基礎	キーワード	スポーツを通じて運動能力を高めよう		
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		体育実技A			
講義の目的	運動は、健康な体を維持するためには必要不可欠な分野であり生涯に通じて親しむべきものである。ここでは比較的競技人口が多い球技を通じて、生涯にわたりスポーツに関わる態度を養うことが目的である。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康や体力の維持増進、技術上達等を各人が体験し健やかな心と体を育てることができる。 2 様々な種目を通して仲間との円滑なコミュニケーション能力を養い、仲間とともに時間と空間を共有する喜びを感じることができる。 3 体育実技を通して、前に踏み出す力・考える力・チームで動く力を同時に体得することができる。 				
講義内容	基本的に以下に示す内容を実施。到達度や受講者人数、希望により内容を変更する可能性あり。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	ガイダンス	後期の内容を確認		
	第2講	バレーボール1	基礎的なボールタッチ		
	第3講	バレーボール2	パス レシーブ		
	第4講	バレーボール3	スパイクを用いた攻撃		
	第5講	バレーボール4	フォーメーションを意識した攻撃		
	第6講	バレーボール5	連携攻撃		
	第7講	バレーボール6	ゲーム		
	第8講	バレーボール7	リーグ戦		
	第9講	バドミントン・卓球1	練習		
	第10講	バドミントン・卓球2	個人練習		
	第11講	バドミントン・卓球3	対人練習		
	第12講	バドミントン・卓球4	トーナメント		
	第13講	バドミントン・卓球5	トーナメント		
	第14講	バドミントン・卓球6	トーナメント		
第15講	バドミントン・卓球7	トーナメント			
指導方法	対面による指導で、全体への一斉指導と、チームを組んでのグループ指導を行う。				
事前学習	習得する技術の基礎知識を予習しておく。90分を目安とする。				
事後学習	トレーニング内容を復習。90分を目安とする。				
成績評価方法	基本的な運動の技能（50%） 運動に対する主体性（20%） 本試験：レポート課題（30%）				
テキスト	特になし				
参考書籍	特になし				
特記事項	運動中は安全確保のため、ピアス・ネックレス・指輪などアクセサリー類は外すこと。				